

# 市長の伊賀じまん

## —伊賀を彩るツツジ—



▶余野公園に咲くヤマツツジ



1年の中でも気持ちのよい季節がやってきました。外に出かけて、新緑の中に色あざやかなツツジが咲いている様子を見ると、心楽しくなります。

ツツジにはたくさんの種類があります。山で一番早く咲くツツジはミヤマツツジ（標準和名：コバノミツバツツジ）です。ミヤマツツジは私が子どもの頃、母の実家があった旧伊賀町に遊びに行ったとき、山仕事帰りの祖父母がよく手折ってきていた思い出があります。また、ツツジの中には大変華やかな赤い花を咲かせるものもあります。大ぶりで非常に印象的なその花は、オオカメツツジ（標準和名：レンゲツツジ）と呼ばれていました。山のツツジにはもうひとつ、色とりどりの花を咲かせるヤマツツジがあります。基本的には赤が多いですが、中には白やベージュといったものも見かけられるようです。伊賀では、ヤマツツジの名勝として、余野公園（柘植町）と青山高原がよく知られています。

余野公園では、地域の人たちが大切に守り続けて

いるヤマツツジが人の背丈以上に育ち大変見事です。5月には、つつじ祭が開かれ近隣や県外からも多くの方が訪れます。ここでツツジを愛でながら1日を過ごすのは、この季節ならではの楽しみです。

青山高原には、同じツツジ科のアセビの花があちらこちらに咲き、続いてヤマツツジが咲く頃には、恒例のつつじマラソンが行われます。毎年市内外から千人以上のランナーがツツジの咲く中で健脚を競います。実は、辻上副市長も毎年この大会に参加しています。さて今年はどうな記録をめざすのでしょうか。

この大会は、ツツジはもちろんコースから見える風景が素晴らしいので、楽しみながら走れるのが魅力ですよ。（副市長 辻上 浩司）



伊賀は自然が豊かで、心が癒される風景が四季折々に広がっています。こうした自然は、伊賀の誇りだと思います。その大切さを次の世代にも伝え、残していきたいものです。（伊賀市長 岡本 栄）

# 伊賀市の文化財 90

市指定文化財（有形民俗文化財）

## 新大仏寺雨乞い関係文書 附 雨乞い踊り用具（富永）

新大仏寺には、雨乞い祈願に関する文書が44点あります。1759（宝暦9）年から1855（安政2）年にわたり、雨乞い祈願の作法や様子などが記され、新大仏寺の雨乞い信仰について具体的に知ることができ、貴重な史料です。

新大仏寺は、藤堂藩が伊賀国の祈雨の国願を掛けた寺で、古くから祈雨に靈験のある寺として知られていました。その際には周辺の富永・猿野・下阿波・上阿波の4カ村が雨乞いと願解きの踊りをしました。文書の1つ『祈雨記』は、1784（天明4）年から1798（寛政10）年に新大仏寺に掛けられた祈雨の祈禱の記録で、干ばつの年には、伊賀・山城・河内・摂津の村々からも祈雨の願が掛けられたことが記されています。

また、雨乞い踊りに使われていたと思われる太鼓2張、笠2枚、衣装1点もあります。



▲雨乞い関係文書「祈雨記」



▲雨乞い踊りに使用していた衣装

太鼓は「鞆鼓」と呼ばれる締め太鼓と同じ形状で、中踊の踊り子が胸にくくりつけて踊ったものと思われ、大鼓の胴には「寛政十午歳細工」とあり、1798（寛政10）年に新調されたものと考えられ、伊賀地方に現存するかんこ踊りで用いられた太鼓では最も古いものです。

笠は竹で編んだ物に和紙を貼り、墨で着色した手作りの笠で、「阿波」の笠は、阿波村が存在した明治22年（昭和30年）のものと考えられます。衣装は紺地で、牡丹と獅子が描かれ、山を挟んで隣接する山畑の勝手神社の神事踊で中踊が着用する衣装と類似しています。

なお、新大仏寺雨乞い関係文書は、今年2月26日に、伊賀市の有形民俗文化財に指定されました。雨乞い踊り用具は、その一部を7月12日（日）まで柘植歴史民俗資料館で展示しています。

文化財課

☎ 47・1285 FAX 47・1290